

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2871000671 | | |
| 法人名 | 株式会社アクティブライフ | | |
| 事業所名 | アクティブライフ山芦屋 | | |
| 所在地 | 兵庫県芦屋市山芦屋町9-18 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年7月4日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年10月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 H.R.コーポレーション | | |
| 所在地 | 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年7月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度方針:「尊厳を保つ」ケアの具体化①重度化予防②同姓介助の目標化
今年度方針:「ご入居者が主人公」理念の具体化
ご入居者が主人公の視点で、ご入居者が我慢する事なく言いたいことを言っていただき、快適に過ごしていただける事を大切にしている。その為に、お一人おひとりの個性を大切に援助させていただく事はもちろんの事、アクティビティ等行事も多く取り入れ楽しみのある生活を演出したり、ご家族とも常に連携を図り、要望・相談を相互に受ける等、共にご入居者の支援を行っている。ご入居者も働くスタッフも楽しいと感じる空間になる事を目標にしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた環境の中、閑静な住宅街の町並みに溶け込み、外観も館内も美しいグループホームである。眺望もすばらしく、快適なゆったりとした生活空間が提供されている。確立された法人運営の下、研修体制の充実・職員間の連携・ご家族への報告と意向の把握などサービスの質の向上に反映する取り組みが継続されている。基本理念の実現を目指し、職員間で話し合い毎年の運営方針に具体化している。ご利用者の高齢化・重度化が進行する中、ご利用者の心身機能の低下予防と職員のさらなる技術の向上に向けて取り組んでいる。医療連携管理体制により、ご利用者やご家族の意向に沿った重度化に対応するケアが実践できる体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・運営理念に「地域社会と共に」という項目がある。地域の民生委員さんなどに夏祭りや餅つきなどの参加を依頼したり、中学校の「トライやるウィーク」の協賛などの地域活動をしている。幼稚園との交流を具体化に向けて進行中。 | 開設以来、「ご入居者が主人公」「生きがいある生活」「尊厳を保つ」「地域とともに」を法人理念とし、新人研修・本社研修で全職員に共有と浸透を図っている。事業所内に掲示し、各種会議の話し合いの中で立ち戻るなど、日常的に振り返る機会を設けている。また、毎年、年度初めに法人の理念に基いた年度方針を策定する話し合いを持ち、理念の内容の理解を深める機会となっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・老人会、コムスク、民生委員の集いに参加している。ホームの催しにも老人会、コムスク、民生委員の方にボランティアで来てもらっている。通勤時にスタッフが挨拶を交わしたり、トライやるウィークの受け入れ、商店の移動販売などの交流がある。 | 保育園児のお遊戯の訪問やトライアルウィークの中学生の受け入れを行い、それを機会に中学校との交流が始まり深まっている。老人会・自治会の総会に参加し、グループホームの行事(餅つき・夏祭り)を紹介し地域の方を招待している。散歩の際近隣の方と挨拶や言葉を交わしたり、買い物で地域の商店を利用したり、移動販売を利用するなど、日常的な交流が定着している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・事業所に地域の方が来られた際や行事などの交流で、認知症の人の理解や支援の方法等をお伝えできている部分もある。AEDを設置し近隣の方にもお知らせしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・2ヶ月に1回の運営推進会議では地域の方や家族に利用者の状況や第三者評価の意義などを説明し、理解を求めている。運営推進会議メンバーがオンブズマン活動に取り組んでいく事を6月に決定した。 | ご家族・地域包括支援センター職員・民生委員が参加し、2ヶ月に1回定期的に開催している。ご利用者・ホームの状況を報告したり、行事やホームの取り組みについての報告や予定を伝えている。その他、インフルエンザ・第三者評価など時期に応じた議題を取り上げ説明したり、意見・情報交換を行うなどしている。新しい取り組みとして、運営推進会議の参加者を中心にオンブズマン活動の開始を予定している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・運営推進会議には地域包括支援センターのスタッフに必ず参加してもらっている。芦屋市介護サービス事業者連絡会のメンバーになっている。市の担当者との連絡を密にしている。 | 芦屋市介護サービス事業者連絡会・役員会・グループホーム部会などに積極的に出席し、情報の収集・共有・交換に努めている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員に必ず出席していただき、ホームの現状を知っていただくとともに連携を密にしている。疑問・相談については市の担当者に連絡し、解決に向けて協働している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・本社の研修カリキュラムに含まれている。ミーティングなど繰り返し説明の機会を設けている。ご入居者の気持ちを一番に考え、したい行動を抑制する事のない様見守りをし、危険やトラブルになると判断出来る時も静止するのではなく、気持ちを違う方向に向けてもらえる様努めている。 | 拘束の研修は本社研修に組み込まれ、職員全員に周知徹底を図っている。事業所内でもミーティングなどで説明や話し合いの機会を持ち、言葉での行動の抑制など認識されにくい拘束についても理解の徹底を図っている。研修などで浸透を図ると共に、職員同士が注意できる人間関係や職員が心の余裕を持てる勤務体制などにも配慮している。館内は自由に行き来できるが、併設施設との関係から玄関は施錠しているが、出かけた際には職員が気づいて同伴しご利用者の気持ちを拘束することがないように心がけている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・本社の研修に組み込み、全スタッフが受講している。「ご入居者が主人公、尊厳を保つ」理念を振り返られる機会を設け、ご入居者の立場に立って考え行動できているか評価している。 | 本社研修に組み込まれ、職員全員に周知徹底を図っている。職員が自己評価のアンケートで振り返りを行い、ご利用者の立場に立って行動できているかを評価している。気になる言動については、管理職が個人的に注意し、共通して気になる内容については会議で意見を出し合い、改善につなげている。 | |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・地域包括支援センターである西山手高齢者生活支援センターと連携をとっており、権利擁護についての情報を得ている。認知症介護実践者研修(県主催)を順次受講している。 | 実践者研修・法人研修で制度について学ぶ機会がある。併設の地域包括支援センターと連携し、情報を得ている。制度を利用される事例が今までにないが、相談を受けた場合は地域包括支援センターと協力して対応する仕組みがある。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約の前には複数回の説明を行っている。身体状態が重度化した方で、看護師常駐の施設を紹介し、スタッフが一緒に現地見学を行い、引継ぎを十分に言い退居されたケースがある。 | 見学时、契約時、入居時など複数回説明し、十分な理解と納得が得られるように取り組んでいる。質問の多い項目については、特に時間をかけて説明するように心がけている。契約の改定・変更時は、家族会で説明するとともに、文面で説明し文書で同意を得ている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・日々の生活の中で、ご入居者・ご家族の意見を伺いながら支援している。何でも話していただける関係作りを心がけている。伺った内容は、「本人・家族承り事項」として、ケース記録に入力し、スタッフで共有している。家族会を年2回実施。 | ご家族の面会時や行事での来訪時などに、意見・要望が引き出しやすい雰囲気作りを心がけ積極的に伺っている。各職員が伺った内容は、システムに入力し、職員全員で共有し日々のケアに反映させるとともに、内容に応じて会議で話し合いご家族に回答している。運営推進会議、家族会も定期的にご家族の意見を伺う機会として活用している。また、年に1回法人のアンケートを行い、集計結果を会議で検討し、取り組みや説明を冊子にまとめ、ご家族にフィードバックしている。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・随時、スタッフ面談を行っている。月1回の施設運営会議やそれぞれの部門で開くミーティングに参加し、スタッフの意見を吸い上げる。年1回本社に改善提案を提出する機会がある。月1回社長とスタッフの面談を行っている。 | ユニット会議・リーダー会議・全体会議・施設運営者会議などで、職員の意見・提案を積極的に募っている。個人面談を随時と年に2回定期的に行い、各職員が意見・提案を表明しやすいように取り組んでいる。また、月に1回社長が面談し現場の声いたり、年に1回本社に改善提案を提出する機会も設けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・面談時にそれぞれの努力や実績、勤務状況、目標を明確にし、それぞれのスタッフに応じた職場環境・条件を整えたり、自己啓発を促している。起案書で新しい取り組みに挑戦出来るよう工夫しており、共に実践し取り組むようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・会社として新人研修、中堅研修、管理者研修を行っている。また、マナー研修委員など事業所のスタッフが講師となり研修する機会を新たに作っている。社内外の研修に参加している。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・芦屋市介護サービス事業者連絡会に参加している。事業者連絡会の研修会に参加している。グループホーム部会で他のグループホーム事業所と意見交換等を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・利用までの間に、管理者とリーダーが家庭訪問し直接本人と会って、生活習慣、日頃の楽しみ、注意事項などを伺っている。センター方式のアセスメントシートを活用し、本人・家族・ケアマネ等から話しを伺い、本人理解に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・相談から入居まで、リーダーもしくは選任のスタッフが対応し、家族の不安がなくなるまで相談に乗る。家族との話し合いの場を随時設け、困っている事や不安な事、要望を受け止め、家族の立場に立ち真摯に対応し、関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・相談を受けた時、まず、本人と家族の思いをしっかりと受け止め、担当のケアマネジャー、主治医の意見も踏まえ総合的に判断できるようにしている。時には、そのまま在宅介護を続けていただくことになる場合もある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・一方的な介護ではなく、生活の場として、家事を一緒にしたり、得意な事を教わったり等、共に過ごし、感じ、助け合う関係がある。人生の先輩に対し尊敬の念を持ち、事ある毎に「ありがとう」の言葉が双方向に行き交う関係が出来ている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・普段の面会、随時行う面接などを通して、家族と一緒に悩み、考え、共に支えていく関係を築いている。ケアプランの中に家族の意向も反映されている。行事の時や日常生活でも家族にお手伝いいただいている。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・個別対応等でその方に馴染みの場所、人に出会いに行く機会を作っている。友人、知人の来訪も自由。家族同士の外出等、入居前の暮らしを継続する工夫をしている。 | 長年ご利用の方が多いため、馴染みの場所・人を把握し、馴染みの関係の継続を支援している。友人・知人の訪問も歓迎し、行きつけの店での買物・理美容・喫茶・食事には個別に同行し対応している。遠方の外出・旅行にもご家族の要望があれば職員が同行している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・ユニットの違うご入居者との外出やアクティビティ等交流を図っている。相性や生活習慣の違いもあることも理解し、スタッフがさりげなく間に入って調整する。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・次のサービス提供者が決まっている場合はセンター方式によるアセスメント記録なども含め丁寧な引継ぎを行う。終了されたご家族が遊びに来訪される事あり。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・各個人とのお話の時間をなるべく多く取り、本人の希望を伺っている。うまく表現できない場合も日ごろの言動の背景を探り、家族や知人から生活歴なども伺い、本人の意向に沿う様に努力している。本人の情報をスタッフも共有している。 | 入居時に、ご利用者・ご家族・関係者からできるだけ多くの情報を収集し、思いや意向の把握に努めている。収集した内容を、アセスメントシート・入居前面接記録・センター方式心身の情報などにまとめ、暫定プランの作成に反映させている。入居後も、コミュニケーションの中で思いや意向の把握に努め、表明が困難なご利用者については表情などから汲み取り、システムに入力された情報を職員が共有し、ケアの実践に活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・本人、家族より聞き取った生活歴、希望などを記録し、スタッフ間で共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・一人ひとりの毎日の記録をスタッフ間で共有している。ミーティングでも各入居者がどのような暮らしを望んでおられるか話し合い、変化や気づきを共有している。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・本人の言葉や行動からもニーズを見出し、介護計画に繋げている。随時、本人、家族の意向を伺い、主治医の意見も取り入れられる様な話し合いを重ねながら、介護計画を作成している。 | 入居約1ヶ月後に職員がセンター方式心身の情報を提出し、関係者で意見を出し合い暫定プランを見直してプランを作成している。月に1回のユニット会議でご利用者全員の状態を確認し、プランの見直しの必要性について話し合い、必要があれば随時の見直しを行っている。安定されている利用者については6ヶ月に1回評価を行い、現状に則したプランの見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・毎日の状況記録に日々の様子や特記すべきことは記入したり、申し送りノートの活用、ミーティングでも個々の情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・地域住民の方々、デイサービスの利用者と共に楽しむ音楽会や夏祭り、お餅つきなどのイベントが多い。ご入居者も地域住民として、地域の美容院、お店、お祭りなどに出かける事も多い。施設内他部署のスタッフも地域住民としてご入居者を支えている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・行事には地域住民のボランティアが参加したり、市内の中学校から用具を借用したりしている。芦屋消防署による消防訓練がある。近所の八百屋が月1回施設に来てミニ市場を開いている。絵やお茶等のボランティアの来訪がある。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・かかりつけ医として希望の医師に受診してもらっている。必要に応じスタッフが受診付き添いをする。協力医は月1回の往診に連れられ、年2回の健康診断も願っている。歯科医師会と連携して、一人ひとりの入居者に専属の歯科医がおり、口腔衛生の管理をお願いしている。昨年は耳鼻科検診も実施した。 | 協力医の往診が月1回、健康診断が年2回あり、全ご利用者の健康管理と早期発見に努めている。かかりつけ医については希望を伺い、ご家族が同行される場合は情報提供を行い、必要に応じて職員が同行している。歯科については口腔内診断を行い各ご利用者の歯科医により、ケアを継続している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 今年度よりグループホーム・デイサービス専任の看護師がいる為、情報を共有し、医療との連携が必要な方にもすぐに対応できるようになった。介護職も安心してケアができるようになった。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・入院時用の入居者のケアに関するサマリーを作り、その方の細かいケアを病院側と共有している。利用者入院時には、出来る限りスタッフはお見舞いに伺い、本人の状態確認をし、病院スタッフと情報交換している。病院の相談員と退院に向けての情報交換をしている。 | 入院時には医療情報提供票を作成し、病院に詳細な情報を提供している。入院中は、職員ができるだけ頻回にお見舞いに行き状態を確認するとともに、早期退院に向けて病院側と情報交換を行い連携をとっている。退院前にはカンファレンスを行い、退院後スムーズにホームでの生活に戻れるように、話し合いを行っている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・終末期の看取りを開所以来3度経験している。その都度、家族や医師、関係者で相談・話し合いの場を持ち支援の方法を決めている。本人、家族の意向を尊重し、医師との連携もスムーズに行えた。重度化されたご入居者の家、医師、施設の話合いの後、訪問看護を利用する様になったケースもある。 | 医療連携管理体制を整備し、重度化した場合における対応に係る指針を作成し、ご家族に説明し同意を得ている。重度化された場合は、ご家族・主治医・職員で会議を開き、その都度ご家族の意向を確認し、医師の指示を受け、方針を統一して対応している。開所以来3度の看取りを経験している。本社研修で「重度化・終末期ケア」を取り上げ、職員の資質向上と不安の軽減に向けて取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルやヒヤリハットを活用し、緊急時の対応を常にシミュレーションできるようにしている。本社研修に安全研修の項目を設けている。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・年2回の緊急避難訓練を芦屋市消防所立会いのもとに行っている。運営推進会議でも災害時の避難経路の確認や設備の説明を行っている。 | 芦屋市消防署の立会いの下、施設全体で年に2回緊急避難訓練を昼夜想定で行っている。運営推進会議では、施設の取り組みを説明し、地域の方への協力と連携を要請している。備蓄は施設全体で確保している。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・入居者の尊厳を大切に越えかけ、対応を行っている。排泄ケアに関しては特に尊厳を大切にしている。本人にだけわかる声かけ、オムツの始末など。本社研修においても食事、入浴、排泄等すべての生活面においてプライバシー・尊厳のある生活を守る事を指導している。 | 「尊厳を保つ」を基本理念に掲げ、法人全体で実践に取り組んでいる。本社研修では、新人研修・現任研修ともに、プライバシー保護・守秘義務などの理論と日々のケアの中での実践について学ぶ機会を繰り返し持っている。また、接遇や言葉使いなどについては、本社でマナー研修を行い、受講者が各事業所で講師になり、職員全員に伝達研修を行い周知を図っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・利用者が「我(われ)がまま」その人らしく過ごされる生活を大切に支援している。本人が決定できるような声かけを心がけている。利用者がやりたい事を自然に見つけられる環境・きっかけ作りを日常の中で行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ・利用者の希望、目標に沿ったケアプランをたてて援助している。毎日のアクティビティもその時々利用者の状況に配慮して無理強いはいしない。食事の時間もだいたい決まっているが、その日の体調などに合わせて個別対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・お気に入りの店のある方はその美容院に行ってもらう。イベント時に浴衣を着たり、外出時や日常のお化粧は楽しみの一つになっている。スタッフと一緒に服を選んだり買い物に行くこともある。ネイルケアもしている。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ・毎日の食事の準備は出来ないが、配膳、後片付けなど、個々にあった方法で、出来ることは利用者をお願いしている。昼食作りやおやつ作りを行ったり、外食や宅配を利用したりもする。食事はスタッフも一緒に食べている。 | 食事は厨房で調理され、状態や意向に応じてご利用者が配膳・下膳などに参加している。昼食作りやおやつ作りをご利用者と一緒を楽しむ機会を設けたり、外食・宅配で変化を持たせる工夫もしている。ご家族の希望で捕食を用意したり、状態に応じてミキサー食・刻み食 ソフト食など食事形態を変えるなど、個別対応に努めている。必要な介助をしながら職員も一緒に食事をし、話し声や笑い声のある家庭的な雰囲気のある食事風景である。 | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ・水分量チェックや一人ひとりに合った食事形態、捕食の購入など、随時対応している。主治医の指導により、捕食や薬で健康管理を行うケースもある。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・一人ひとりに担当の歯科医がおり、定期健診をしている。状態に応じて受診、往診してもらっている。定期的に歯科衛生士の指導も受けている。毎食後、それぞれの状態に応じて口腔ケアをしている。本社の研修カリキュラムに口腔ケアがある。 | | |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・日中、夜間ともトイレでの排泄を基本としている。無理やりではなく、さりげなくトイレへお誘いしている。必要な方には、回数、量を記録している。個人の気持ちに合わせた排泄介助をしている。 | 排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した声かけで誘導し、排泄の自立に向けて個別支援を行っている。医師の指示や体調の変化がある場合、排泄回数や量を詳細に記録している。水分・食事に配慮し、自然な排便コントロールを心がけている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・水分摂取、食事の内容の工夫、適度な運動で自然排便につながる様心がけている。薬をDr. と相談しながら中止し、自然排便が増えたケースもある。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ・同姓介助を基本としている。異性介助の場合はプライバシーに十分配慮している。その日の気分やタイミングを見極め、気持ちよく楽しんでいただける様、無理にではなく楽しい感じになる様、誘い方も工夫している。ゆず湯、菖蒲湯など季節を感じていただいている。 | 隔日を基本に、ご利用者の体調や希望に応じて入浴支援している。拒否の方には声かけやタイミングを工夫し対応している。同性介助を基本にプライバシーへの配慮を周知し、重度の方には2人介助で安全を確保している。また、ゆず湯・菖蒲湯など、入浴を楽しめるような配慮をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・日中に適度の運動や不安を取り除く支援をし、夜間の安眠に繋げている。消灯時間は時に決めていない。夜間の室内の明るさは個人の好みになっている。枕や敷布団、ポアシーツ等、個人の馴染みの者を使っている。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・薬の服薬目的を理解し、症状の変化は医師に様子を報告し、医師の指示に従っている。服薬時、正しく服薬されたか見守り、確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・個人に合った役割を持っていただいている。得意分野に合わせ、充実感、喜びのある日々を過ごせる様支援している。全体でやるアクティビティと個人向けのアクティビティがある。音楽療法、個別の機能訓練、健康体操教室等がある。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・買い物、散歩、ドライブ、外食、喫茶店等、日常的に個別でも集団でも出かけている。毎日となると出来ない事もあるが、その希望があった時には機会を作っている。ご家族にも無理のない範囲で外出に参加してもらっている。 | 近隣への散歩・買い物・外食・喫茶など、外出の機会が多く持てるように取り組んでいる。希望に応じて、複数で出かけたり、個別の外出になることもある。外出が困難な場合は、中庭やテラスに出て、野菜や花の手入れをしながら外気浴を楽しんでいる。また、月に1回はユニット全体で、年に1回はグループホーム全体での外出行事を、職員からアイデアを募り、企画・実施している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・金銭管理が可能な方には小額の現金で買い物などしていただいている。月に一度の八百屋の移動販売にて、それぞれの方にお好きな物を買っていただき、計算も出来る範囲でもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・居室に電話を引くことができる。手紙を書く援助をする。年賀状を送っていただくよう支援している。 | | |

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・毎日清掃して清潔を心がけ、照明、室温は随時その時のご入居者に合わせて適正に保っている。季節毎の飾り、花や植物、フロアの飾りつけを行い、居心地の良い空間を作っている。 | 明るく清潔でゆったりとした共用空間に、各ユニットに適した動線や機能を考慮して家具が配置されている。花や装飾品がかざられ、季節感や家庭的な雰囲気が感じられる。落ち着いた生活空間の中、ご利用者は思い思いの場所でくつろいで過ごされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・ソファや椅子を色々なコーナーに設置し、その時の心境に合わせて過ごしていただける。庭にも椅子、テーブルがあり、思い思いに過ごせる。二つのユニットの間のサロンで一人になれる空間がある。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・使い慣れた家具や布団、本などを持ち込んだり、写真やカレンダーなども飾っていたいいる。 | ベッド・クローゼット・枕頭台が備え付けられ、それ以外は使い慣れた家具や装飾品が持ち込まれ、ご家族の協力を得て、入居前の生活が継続できるように取り組んでいる。仏壇・写真・人形などが置かれ、その人らしさを大切にされた落ち着いた空間作りに努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・トイレが分かる工夫や、居室の表札などで目的の場所を認識しやすい様になっている。必要な箇所の手すりや建物全体がバリアフリーであり、それぞれの身体機能に合わせて移動できる様になっている。ペランダに季節の花を植え、その水遣りを日課にされている方もいる。 | | |